



ハインツ・ホリガー



シャンタル・マテュー



柳家花緑



大萩康司 ©Ryutarō Horuchi



三浦一馬

FOCUS

10.4 [土] 5 [日] 水戸室内管弦楽団 第91回定期演奏会

巨匠ホリガーとMCOが贈る音楽の“おもちゃ箱”。柳家花緑師匠も登場！

文 関根哲也

2012年10月の水戸室内管弦楽団(MCO)第85回定期演奏会以来、2年ぶりの登場となる巨匠ハインツ・ホリガーさん。今回は、前回特に評価の高かったハイドンの交響曲のほか、「好意的で、理解力のある水戸の聴衆の皆様」(下記、ホリガーさんのインタビューより)のために、他では聴くことのできない斬新なプログラムを用意。ルトスワフスキ〈オーボエ、ハープと室内管弦楽のための二重協奏曲〉には、ヨーロッパで活躍するハープ奏者、シャンタル・マテューさんも出演します。10月の演奏会に向けて、マエストロからコメントをいただきました。

ハインツ・ホリガー
インタビュー

—マエストロ、前回の水戸の印象はいかがでしたか。

ホリガー：2年前の水戸滞在は、素晴らしい思い出となっています。水戸という街の素晴らしい雰囲気、オーケストラとの友情関係、コンサートに来てくれた若い学生たちの愛すべきスピリット、そして聴衆の皆さんがあたたかく、打ち解けた感じで私たちの演奏を受け入れてくださったこと……。

—前回、ハイドンの交響曲〈第104番〉の演奏はとても印象的でした。今回の〈第103番〉もとても楽しみです。ハイドン

を指揮するのに、何か秘訣はあるのでしょうか。

ホリガー：キーのひとつは、確実にハイドンの交響曲の中にあります。意表をつく転調に、いかなる瞬間も、準備しておかなければなりません。

—ルトスワフスキ(1913～1994)の〈二重協奏曲〉は“吹き振り”ですね。

ホリガー：この作品は、ウルスラ・ホリガー(※)と私のために、パウル・ザッハーが委嘱したものです。私たち二人が特に気に入っていた作品のひとつで、世界各地で50回以上も演奏し、2つの異なる版でレコーディングもしています。私たちは、ルトスワフスキ夫妻ととても親しかったのです。

—ドビュッシーのバレエ音楽〈おもちゃ箱〉を朗読付きで上演するという試みも話題になっています。日本ではあまり演奏されない作品ですが、マエストロにとって〈おもちゃ箱〉はどのような魅力を持つ作品ですか。

ホリガー：この作品は、〈遊戯〉、〈カンマ〉とともに、ドビュッシーの最後の管弦楽曲のひとつです。〈おもちゃ箱〉を聴けば、子ども時代の神秘性と不思議さのすべてに対して、ドビュッシーの心が開かれていたことがわかります。同時に、ドビュッシーが迫りくる戦争と死の恐怖を見据えていたことも。ドビュッシーはオーケス

トラ譜を仕上げるができなかったため、親友でもあった偉大な作曲家・指揮者のアンドレ・カブレが完成させました。

—10月の演奏会が今からとても楽しみです。

ホリガー：私もこの優秀なオーケストラと再び共演できることが楽しみでなりません。また、とても好意的で、受容力のある水戸の聴衆の皆様と、再び素晴らしい音楽を分かち合えますことも、とても楽しみにしています。

※ウルスラ・ホリガーさんは、本年1月21日にご逝去されました(享年76)。水戸芸術館で演奏していただくことが叶わず、大変残念に思います。心からご冥福をお祈りいたします。

柳家花緑師匠も登場！

ドビュッシーの〈おもちゃ箱〉は、ホリガーさんのアイデアに基づき、楽譜に記されたト書きを語り手が読みながら演奏します。その「語り」を務めるのが、落語界のプリンス、柳家花緑さん。実は、花緑師匠、今シーズンは「柳家花緑♥水戸芸術館」と題し、水戸芸術館の音楽・演劇・美術の3部門と様々な企画でコラボレーションしています。ホリガー指揮MCOとの共演に向けて、次のようなコメントをお寄せくださいました。

柳家花緑 メッセージ

MCOとの共演は、「花緑」の歴史の中でも、特別なものになる気がいたします。

本業である落語は、皆様ご存知のように、共演者がいません。そういう世界で、通常仕事をしております。今回は、世界屈指の指揮者であるハインツ・ホリガーさん、そして一流の演奏家がそろったMCOと「共演」させていただくことになります。ここが、チャレンジのしどころと考えております。

落語をやる上でのチャレンジは、古典落語をネタ下ろし（初演）する時、多くの先輩方が手掛けた作品に挑むので、たくさん比較されて打ちのめされて自分

の非力さを感じてしまいます。クラシック音楽もやはり比較されることはまぬがれないジャンルですね。

さあ今回の企画はどうでしょうか…珍しい作品ですよ？きっと大丈夫だろう!?と安心はしているんですが、手探りの状態で挑むことにはなりそうです。ハラハラドキドキをワクワクに変えて当日に臨みたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

水戸室内管弦楽団
第91回定期演奏会

10/4 土 18:00 開場
18:30 開演
10/5 日 13:30 開場
14:00 開演

会場 水戸芸術館コンサートホール ATM
全席指定 S席 9,000円、A席 7,500円
B席 6,000円、ユース(25歳以下) 2,500円
出演 ハインツ・ホリガー (指揮、オーボエ)、
シャンタル・マテュー (ハーブ)、柳家花緑 (語り)
曲目 ハイドン：交響曲 第103番 変ホ長調
Hob.I-103 (太鼓連打)
ルトスワフスキ：オーボエ、ハーブと室内管弦
楽のための二重協奏曲
ドビュッシー：バレエ音楽〈おもちゃ箱〉

9.20 土 ちょっとお昼にクラシック 大萩康司(ギター)×三浦一馬(バンドネオン) 気鋭のギタリストとバンドネオン奏者が魅せる！情熱の音楽

文 高巢真樹

今回は、日本を代表するギタリスト・大萩康司と、バンドネオン界の新星・三浦一馬による夢の共演をお届けします！

音の詩人、大萩康司

8歳でクラシックギターを始めた大萩康司は、師・福田進一氏の勧めによりフランスのバリ国立高等音楽院などで学び、98年、ギター国際コンクールの世界最高峰、ハバナ国際ギター・コンクールで第2位&審査員特別賞を受賞。その演奏は世界各国で熱狂的な支持を得ています。

大萩さんの魅力は、強い生命力を感じさせるダイナミックさと、心の琴線にふれる詩的な表現をも併せもつところ。ベストアルバム『フェリシタシオン!』には、ギタリストたちからこんな言葉が寄せられています。「いつしか原石は予想どおりに磨かれ、私の人生で最も誇らしく思える存在のひとつになった」(福田進一)、「ギターの音色がこれほどまでに素晴らしいとは！ギタリストである僕が、心からそう感じたアルバムです」(押尾コータロー)。大萩康司の稀有な音楽性は、他の名ギタリストをもうならせているのです。

バンドネオン界の新星、三浦一馬

三浦一馬は、10歳でバンドネオンと出会い、小松亮太氏に学びます。2006

年には別府アルゲリッチ音楽祭で、バンドネオンの神様とされるネストル・マルコーニとの出会いを実現。その後自作CDの売上で渡航費を捻出してアルゼンチンに留学するなど、並はずれた行動力の持ち主です。08年、第33回国際ピアソラ・コンクールでは、日本人初、史上最年少で準優勝しました。

ところで皆さんは、バンドネオンが「悪魔の楽器」と呼ばれるのをご存知ですか？左右に71個ついたボタンを押して演奏する際、ドレミの配列は不規則、かつ蛇腹の押し引きで違う音が出るという、常人にはなんと近寄りたがたい複雑さを持っているのです。しかし三浦さんは高度な演奏技術でこの楽器を自在に操り、人の心を深く揺さぶるスケールの大きい演奏を聴かせてくれます。

ピアソラを中心とした刺激的な曲目

今回はソロのほか、それぞれの楽器を歌心豊かに奏でる二人ならではの、息のあったデュオをお届けします！バンドネオンソロは、ピアソラ作曲〈アディオス・ノニーノ〉。ピアソラは、アルゼンチン・タンゴにおいて、独創的な世界を切り拓いた作曲家。この曲は、彼の父が他界した際、失意の中でレクイエムとして書き上げたものです。心の叫びを想わせるメロディと強靭なリズムに彩られた、ピアソラの代表曲の一つです。ギター・ソロ

は、20世紀のブラジル音楽を代表する作曲家モライス／ジョビン作曲〈フェリシダージ〉。1959年のカンヌ国際映画祭でバルム・ドールなどを受賞した名作『黒いオルフェ』の主題歌です。ボサノヴァを世に広めたとされる作曲家たちの共作であるこの曲を、大萩さんの演奏でお楽しみください。デュオは、二人それぞれ強い思いで取り組んでいるピアソラを中心に。〈タンゴ組曲〉は、もともと超絶技巧ギター・デュオ、アサド兄弟のために作曲されたもの。この曲に強く惹かれた三浦さんは、ギターとバンドネオンのために自ら編曲し、大萩さんと共に世界初録音にも挑みました。哀愁に満ちたメロディや熱狂的なリズム、疾走するパッセージを、絶妙なコンビネーションで繰り広げる…そんな情熱に満ちたひとときにご期待ください！

ちょっとお昼にクラシック
大萩康司(ギター)
×三浦一馬(バンドネオン)

9/20 土 13:30 開場
14:00 開演

会場 水戸芸術館コンサートホール ATM
全席指定 1,500円
出演 大萩康司(ギター)、三浦一馬(バンドネオン)
曲目 ピアソラ：〈タンゴの歴史〉より
フォーレ(シーファー編)：シシリエンス、
夢のあとに
ピアソラ(マルコーニ編)：アディオス・ノニーノ
モライス／ジョビン(ディアンス編)：
フェリシダージ
ピアソラ(三浦一馬編)：〈タンゴ組曲〉より

9.28日 at 14:30 坂口大介・高野綾 デュオリサイタル〜木の鳴るとき、金の筒が響く

9月最後のコンサートを彩るのは、サクソフォンとマリンバのデュオ。これは世界でも珍しい形のアンサンブルです。二重奏という時、まず思い出されるのは、ピアノと旋律楽器のアンサンブルでしょうか？ この組み合わせは、これまで多くの名作を生み出してきた確立されたスタイルです。ピアノという万能楽器が旋律を支え、安定感と調和をもたらします。一方で今回の二重奏。これは言わば、異種格闘技戦です。二つの楽器、二人の人間が真っ正面からぶつかる。お互いの個性をより鮮明にし、新しい音を紡ぎ出されます。

実はこの二つの楽器、形は全く違いますが、一つ共通する特徴があります。

[木が振動し、金属が響き、音を創る]

サクソフォンは金管楽器に思われがちですが、実はれっきとした木管楽器。クラリネットやオーボエと同じように葦でできたリードを振動させて音を作り出します。一方のマリンバは見た目通りにシンプルに木の鍵盤を叩き、その振動を金属のパイプに通す事で音を奏でる。そう、この二つの楽器はある意味同じ仕組みで音を生み出しているのです。二つの楽器がそれぞれに音を発し、自分の管を、そして相手の管を響かせる。その音のシャワーをぜひホールで感じてください！

プログラムは、まずピアソラの〈タンゴの歴史〉から。ピアソラが生きたそれぞれの時代のタンゴ。ピアソラはサクソフォン、マリンバを好んでいたようで、自らのバンドに両楽

器を参加させていた事もあります。マスランカ、フィットキンと共に現代を生きる作曲家ですが、そのスタイルは対照的。イギリス・ミニマル・ミュージックの旗手としてのフィットキンに対し、マスランカはバッハを敬愛し、バッハと現代音楽の融合で音を紡ぐスタイル。そして、坂口、高野両名による書き下ろし作品も当日初演されます！

何もかも初感覚となるだろうコンサート、ぜひ体験してください！

坂口大介



2014.6.14

親と子のファミリーコンサート オペラシアターこんにゃく座 オペラ「銀のロバ」

今年の「親と子のファミリーコンサート」では、オーストラリア児童図書賞受賞作『銀のロバ』を、オペラシアターこんにゃく座による日本語のオペラでお届けしました。故郷へ帰りたいと願う目の見えない兵士を助けようと知恵を絞り、一生懸命行動する幼い姉妹たち。その成長物語が、5人の歌役者たちの力強い歌唱と絶妙なハーモニー、躍動感のある演技によって生き生きと描かれました。姉妹の心の動きや物語を浮き彫りにする力をもった音楽、そして「オペラは敷居が高そう」というイメージを見事塗り替えるようなこんにゃく座の熱演に、終演後大きな拍手が贈られました。〈高巣〉アンケートから■5人とピアノのハーモニーがすばらしく、心に響きました。物語に引き込まれ、役者さんたちの表情、目線、動き全てがダイレクトに伝わってきて本当に素晴らしいかったです。(水戸市:T.O.さん) ■歌がこころにひびきました。いろいろなことが伝えられてきて、とても感動しました。(水戸市:Y.O.ちゃん) ■言葉に力があってとても良かった。戦争の陰にこんなドラマもあったのかなと思うと、思わず感動の涙でした。(水戸市の方) ■きょうはありがとう。たのしかったよ☆(水戸市:M.O.ちゃん)

2014.7.6

竹澤恭子 ヴァイオリン・リサイタル

国際的なスターダムに駆け上り、活動を行うヴァイオリニスト、竹澤恭子。小澤征爾水戸芸術館館長もその実力を賞賛し、今年1月の水戸室内管弦楽団第89回定期演奏会では、オーケストラの一員として参加した。水戸芸術館でのリサイタルは、1998年以来、2回目となる。プログラムは、ブラームスの〈ヴァイオリン・ソナタ 第3番〉とベートーヴェンの〈クロイツェル・ソナタ〉という2つの大曲を含む、気概に満ちたもの。名手イタマル・ゴランとの丁々発止のアンサンブルが繰り広げられた。アンコールは、チャイコフスキー〈四季〉より10月“秋の歌”、ブラームス〈ヨアヒム編曲〉〈ハンガリー舞曲集〉より第1番、山田耕柁(島津秀雄編曲)〈赤とんぼ〉《中村》アンケートから■何と素晴らしいデュエットでしょう。ブラームスに酔い、クララに酔い、そして〈クロイツェル〉に圧倒されました。すてきな7月のプロローグに涙も出る程、感激しました。(東海村:Y.N.さん) ■情熱的で心に響く、すばらしい演奏に、感動！アンコールに何度も応えてくれて、うれしかった。久しぶりに充実した時間が過ごせました。(水戸市:K.T.さん) ■〈クロイツェル・ソナタ〉が好きで、今まで何回か聴きましたが、こんなに心を動かされたのは初めてです。(無記名の方)

最近の公演から



1-2: 親と子のファミリーコンサート オペラ「銀のロバ」
 3: 竹澤恭子 ヴァイオリン・リサイタル

これからの演奏会・残席情報

○…残席あり(20席以上) △…残席わずか(20席未満) ×…残席なし
 中央…中央ブロック 左右・裏…左右ブロックおよびステージ裏 補助…補助席

- ◎アルディッティ弦楽四重奏団……………8/23(土)中央○、左右○
- ◎ちょっとお昼にクラシック
 大萩康司(ギター)&三浦一馬(バンドネオン)
 ………………9/20(土)中央×、左右○
- ◎坂口大介・高野綾 デュオ・リサイタル……………9/28(日)自由席○
- ◎水戸室内管弦楽団 第91回定期演奏会
 (指揮、オーボエ:ハインツ・ホリガー)
 ………………10/4(土)中央○、左右・裏○
 ………………10/5(日)中央○、左右・裏○
- ◎茨城の名手・名歌手たち 第24回(司会:池辺晋一郎)
 ………………10/11(土)自由席○
- ◎ミシェル・ブヴァール オルガン・リサイタル
 ………………10/24(金)1F○、2F○
- ◎新ダヴィッド同盟 演奏会
 ………………10/31(金)中央△、左右・裏○
 ………………11/2(日)中央×、左右・裏○
- ◎河村尚子 ショパン・プロジェクト 第1回
 ………………11/8(土)中央○、左右○
- ◎宇野陽子 チェロ・リサイタル……………11/16(日)自由席○
- ◎ちょっとお昼にクラシック 池上英樹(マリンバ、打楽器)
 ………………11/24(月・祝)中央○、左右○

※7/30(水)現在の状況です。
 ※固定席が売り切れ次第、補助席を販売いたします。

ACM 劇場

■未来サポートプロジェクト Vol.3 落語とミステリー「やさしい死神」
 常陸太田市出身の落語家・柳家さん弥を案内人に、落語とミステリーの謎解きの面白さを融合させた、一粒で何度も美味しい舞台です。
 9/13(土)16:00開演、9/14(日)13:00開演、
 9/15(月・祝)13:00開演
 料金[全席指定]S席¥2,500/A席¥2,000/B席¥1,500

■第18回 水戸短編映像祭+第29回 水戸映画祭

- 9/20(土)、21(日)招待上映部門
- 9/23(火・祝)コンペティション部門

■第15回 水戸市郷土民俗芸能のついで

9/28(日)入場無料[全席自由]

現代美術ギャラリー

■鈴木康広展「近所の地球」

8/2(土)~10/19(日)9:30~18:00 ※入場は17:30まで

[休館日]月曜日

※ただし9/15、10/13(月・祝)は開館、翌9/16、10/14(火)休館

[入場料]一般¥800/前売り・団体(20名以上)¥600

※中学生以下・65歳以上・障害者手帳をお持ちの方と付添いの方1名は無料

茨城の主な9月の演奏会

■佐川文庫 TEL / 029(309)5020

・弓新 ヴァイオリン・リサイタル 9/5(金)18:30開演

■日立シビックセンター(音楽ホール) TEL / 0294(24)7720

・洋楽文庫 第2章 バク・キュヒ ギターの調べ~天使のトレモロ~
 9/15(月・祝)14:00開演

■常陸太田市市民交流センター(バルティホール) TEL / 0294(73)1234

・ファミリーコンサート オークストラで聴くジブリ音楽
 9/6(土)15:00開演

■ギター文化館 TEL / 0299(46)2457

・福田進一 ギターリサイタル 9/7(日)15:00開演

■坂東市民音楽ホール TEL / 0297(36)1100

・マリンバ&パーカッション デュオ・コンサート 9/7(日)15:30開演

水戸芸術館の主な9月のスケジュール

コンサートホール ATM

■ちょっとお昼にクラシック

大萩康司(ギター)&三浦一馬(バンドネオン)

9/20(土)13:30開演

料金[全席指定]¥1,500(1ドリンク付き)

■坂口大介・高野綾 デュオ・リサイタル

9/28(日)14:30開演

料金[全席自由]一般¥2,000/高校生以下¥1,000

エントランスホール

■パイプオルガン プロムナード・コンサート 入場無料

□9/6(土)石原麻衣 12:00~/13:30~(各回30分程度)

□9/13(土)甲斐弦也 11:00~(45分程度)

■プロムナード・コンサート EXTRA

9/7(日) Duo Reflet(ピアノ・デュオ)

12:00~/13:30~(各回30分程度)

チケットに関するお問い合わせ

水戸芸術館チケット予約センター TEL 029-231-8000

営業時間:9:30~18:00(月曜休館)

公演内容や企画に関するお問い合わせ

水戸芸術館音楽部門 TEL 029-227-8118

ホームページ <http://arttowermito.or.jp/>

公式ブログ <http://concerthallatm.blog101.fc2.com/>

ATM 便り 毎月1回茨城新聞に不定期登場

twitter @ConcertHall_ATM

編集後記

カ ナツチです。これまで、学校のプールの授業は苦痛でしかなく、海や川も極力避けてきました。が、少し大人になった今、堂々と浮き輪に頼ってみると、これがなかなか良い気持ち。水のトラウマを克服できそうです。(り)

こ 数日急に暑くなり、仕事場に着くなり一日の体力を使い果たした気分になります。飼っているネコ様も、少しでも涼しい場所を求めてウロウロ。最終的にクーラーの風が当たる場所ではしゃいでいます。(福)

先 月の初めに胃腸炎でダウン。3日も起き上がれずになんて何年ぶりのことだったろう?体調の回復とともに自分の体質の変化にも気が付いた。病気のせい?年のせい?お酒に弱くなったことが残念でならない!(篠)

人 間のかがんだ背中に犬が飛び乗り、さらに進行方向に投げたディスクをキャッチする技(バックボルト)を覚えた。喜びとともに得たのは背中への無数の引っかき傷。海水浴や温泉に行くにはちょっと勇気がいられます。(て)

こ の夏はフランスへ。中でもブルターニュの古都ディナンが魅力的だった。中世の香りが色濃く残る町並み、そして青い空のもと街角で聴いた、ケルトハーブの素朴な音色…まだ知らぬ景色や響きへの興味は尽きない。(樹)

自 宅の壁に黒い物体がへばりついていて、恐る恐る捕虫網でつついてみるとか細い声で鳴いた。2年前にも遭遇した小さなコウモリだった。今回も外に逃がしたので、またしても吉兆も同じように去ってしまっただろう。(中)

水戸芸術館音楽紙 [ヴィーヴォ]

2014年9&10月発行 第190号

編集発行:水戸芸術館音楽部門

〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8

TEL 029-227-8118 FAX 029-227-8130

E-MAIL ankmr@arttowermito.or.jp

URL <http://arttowermito.or.jp/>

編集:水戸芸術館音楽部門(五十音順)/石井亮子

福田枝里子 篠田大基 関根哲也 高巢真樹 中村晃

デザイン:藤澤絢子

印刷所:山三印刷株式会社